



石岡保健センター ☎ 24-1386

▲ 8月23日にふれあいの里石岡ひまわりの館で行われた第2回地域医療懇談会の様子

私たちが安心して医療を受けられる地域にするには

# 石岡の地域医療のいま

**茨**城県の医師数は、人口10万人あたり189.8人（平成28年）で、全国平均251.7人を大きく下回る**全国ワースト2位**。さらに石岡市は124.8人、かずみがうら市は45.6人、小美玉市は71.2人と石岡地域は全国平均の半分以下です。医師の数は増えている一方で、地域差の拡大が広がっていることが問題です。今回は、石岡市が抱える地域医療の課題をご紹介します。

## ■課題1 小児科・産婦人科医師の確保

石岡地域にある小児科の医療機関は石岡市10件、かずみがうら市4件、小美玉市9件で、水戸市97件・土浦市51件と比較すると非常に少ない状況です（平成27年茨城県保健福祉統計年報）。

さらに産婦人科は、平成29年12月に市内の病院が分娩の取り扱いを終了したことで石岡地域で出産できる医療機関がなくなりましした。

石岡地域の多くの妊産婦は市外の病院で出産し、昨年は300件を超えています。

## ■課題2

### 休日・夜間の緊急診療の体制

現在、内科・小児科の休日・夜間診療を受け持つのは、石岡市医師会所属の10人ほどの医師。医師会によると医師の平均年齢は63歳で、ここ15年以上、市内での新規開業はありません。

## ■課題3

### 在宅医療体制の整備

団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、介護・訪問看護・ケアマネージャー等の連携システムができあがりつつありますが、訪問診療をする医師は市内では3人と非常に少ない状況です。

近くの病院のホームドクターに看てもらえれば大病院への一極集中は避けられます。今後は在宅医療体制の整備と核となる医師、病院の確保が必須です。

### 増える緊急診療の受診件数

休日の昼間・夜間に行う内科・小児科の診療です。

年度	患者数	月平均	日平均
H25	3,060	255	43
H26	3,256	271	46
H27	3,304	275	47
H28	3,238	270	46
H29	3,495	291	49

今後、緊急診療は医師の高齢化で対応できなくなる恐れがある上、医師だけでなく、看護師や介護士なども不足している状況です。

## 第1回 石岡地域市民医療懇談会報告

# 小児科医・産科医の不足 夜間診療の限界が浮き彫りに

**今**年度、かずみがうら市・小美玉市と共に、医療関係者と市民、行政で地域医療の課題を話し合う「石岡地域市民医療懇談会」を設置し、6月25日に第1回を開催しました。懇談会は、石岡市医師会・歯科医師会、石岡薬剤師会、3市から市民代表の6人の女性、土浦保健所、各市の議会議長と市長の計16人で構成されています。

**今泉市長** 石岡地域の医療の現状と課題を医療の現場からご意見をいただければと思います。

**柏木医師** 土浦市には大きな病院がありますし一見足りているようにも見えますが、土浦医療圏に属している石岡市とかずみがうら市は、人口10万人あたりの医師数がそれぞれ124.8人と45.6人で、全国平均（約250人）を大きく下回っています。石岡市やかずみがうら市はスポット的に医師不足の非常に危うい状況なのです。また現

在の石岡市医師会会員の平均年齢は63歳で、石岡市内では15年以上、新規開業はゼロ。ここ10年で5件が廃業し医療機関は減る一方です。

次に緊急診療は、医師会事務局で医師を探して割り振ります。休日夜間診療を回しています。しかし診られる医師は13人しかおりません。夜間に至っては、対応可能な開業医が10人のみ。

小児の予防接種や小中学校での健康診断などの予防医療などが忙しい中で、大学病院の先生に助けていただきながら、なんとか繋いでいる夜間診療はそろそろ限界にきています。

**岡野議長** 石岡市議会でも、医師不足、とりわけ少子化対策で産婦人科がなくて分娩できないということは、若者の

### 【発言者プロフィール】

- 医療関係者
  - ・柏木史彦氏（石岡市医師会会長）
  - 石岡市民代表
    - ・見坂恵美子氏（40代女性。保育園児から高校生まで4人の子どもを育てる）
    - ・足立真由美氏（60代女性。80代の母親と二人暮らし）
  - 行政・議会
    - ・今泉文彦石岡市長
    - ・岡野孝男氏（石岡市議会議長）

定住を妨げる要因になるのではと心配しています。

**今泉市長** 行政では、土浦協同病院の建設費の補助支援などをしてきたわけですが、地域医療に関しては、全くそういった支援が行われていなかったのが現状です。

大きな偏りがある現状に対して、地域医療をどうしていくかが一番の課題です。市民代表の方の意見を伺います。

**見坂さん** 石岡市で安心して子育てをしていくために、小児科医と産婦人科医の確保をお願いしたいと思います。

**足立さん** 先生方も数が少ないところで大変だと思えます。ですから、いかに連携した地域医療体制をつくれるかを考えていくべきだと思います。

**今泉市長** 医師の高齢化によ

り緊急医療などの計画を立てることが本心に厳しい状況だということです。地域医療の現状をみんなで認識することから始まります。

夜間診療の充実や医療連携体制、短期的な医師確保の対策を考えていかなければなりません。最後に、柏木先生にまとめていただきます。

**柏木医師** 先進国の中で一人産婦人科でお産をしている国はありません。病院に産科医を集約し、お産をやっていくのが時代の流れだと思えます。個人の産科医を誘致し、ここで開業してくださいというのには現実的ではありません。ですから病院そのものもある程度の集約化し、周産期医療ができるような病院が必要だと思えます。

※懇談会は全3回の予定で、3回目は10月の予定。過去の懇談会で話された内容は、ホームページで公表しています。